

東京国公だより

東京国家公務員・独立行政法人労働組合共闘会議 2024年4月20日 63-046

メール アドレス uematsu@tk-kokko.org 東京国公 HP <http://tk-kokko.org/>

2023年度&3月消費者物価速報(総務省・統計局 4/19発表)

止まらない、止まらない！消費者物価の高騰

2023年度は対前年比2.8%上昇

3月は対前年同月比2.6%上昇

2023年(暦年)では対前年比 3.1%の上昇！これは41年ぶりです。

対前年同月比で物価上昇は 31 カ月連続！
2%以上の対前年同月比物価上昇は 24 カ月連続！

毎月勤労統計調査(令和6年3月分速報)は5月9日に発表になりますが、間違いなく実質賃金は対前年同月比でマイナスになるでしょう！物価と賃金はまさに一体で闘ってこそです。

物価高騰が賃下げ(=実質賃金マ

イナス)を招いている！物価高騰

を抑えてこそ賃上げにつながる！

年度平均の指数は

2020年度を10

0として、3月は1

05.9

総務省が4月19日発

表した2023年度平均の全国消費者物価指数(2020年=100とし生鮮食品を除く)は、前年度と比べ2.8%上昇の105.9となりました。原材料価格の高騰などを受けた食料品や日用品の値上げが大きく影

響したようです。

*総務省からは様々な視点から指数が発表されます。一般的には生鮮食品を除く指数が、物価指数を除外率として使われます。生鮮食品は価格変動が激しく、同一条件での比較という点から、生鮮食品を除く指数が使われます。ただ政府による電気・ガス料金の負担軽減策の影響で、伸び率は22年度の3.0%から小幅に縮小しました。

生鮮食品とエネルギー

ギーを除いた消費

者物価指数は3・

9%上昇！ 198

1年度(4・0%)以

来、42年ぶり

生鮮食品とエネルギーを除いた消費者物価指数は3・9%上昇し、1981年度(4・0%)以来、42年ぶりの大きな伸びとなりました。

2024年3月

も2・6%上昇！

同時に発表された2024年3月の生鮮食品を除く全国消費者物価指数も、前年同月比2・6%

上昇の106・8でした。

つまり2020年度平均

との比較では、この3月

は6・8%も物価が上昇

したことになります。も

のすごい上昇です。

激しい食品の

上昇！

2023年度平均を項

目別に見ると、生鮮食品

を除く食料は前年度比

7・5%の上昇です。鶏

卵は24・5%、アイスク

リームは11・6%とコス

ト上昇を価格に転嫁する

動きが目立ちます。

インバウンド(訪日客)

需要が好調だった宿泊料

は25・5%伸びました。

洗濯用洗剤は13・0%の

上昇です。

一方、電気や都市ガス

代を含む光熱・水道は

9・1%下落しました。

これは政府補助があった

ためです。

しかし電気ガスは5月

の検針までで、補助は打

ち切られます。

軍備拡張予算は惜しげ

もなく2倍化です。この

点では軍拡・物価・賃金

を一体で闘う必要があります。

ます。

円安・株安が

深刻です

円安、株価下落も同時

並行です。この日の東京

株式市場は、日経平均株

価が前日比1011円安

い3万7068円で取引

円安・物価高騰を抑え実質賃金を上げてこそ経済の好循環が生まれる！

↓負のスパイラルを断ち切れ！

円安→輸入物価上昇→企業物価高

→消費者物価高騰→実質賃金低下

→消費低迷&デフレ志向→景気低迷

を終えました。中東情勢

が緊迫化して投資家がリ

スク回避で日本株の売り

を強めたとされています

が、下げ幅は今年最大で

した。

19日は下げ幅が一時1

300円を超え、2カ月

ぶりに3万7000円を

割り込む場面もありまし

た。

つい3月は円安で海外

投資家の資金が流入する

「円安・株高」の傾向で、

株高と沸いていました。

メディアも経済評論家も

株高を盛んにはやし立て

ていました。しかし4月

になってからは「円安・

株安」という事態が起き

ています。

本質的原因は、日本経

済の大きなゆがみです。

GDPの5割を超える家

計消費が伸びない⇒賃金

下落では経済の好循環な

どあり得ません！